
うことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じゃないし！転生だし！ま

美羽派の男 A

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パパのいうことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じゃないし！転生だし！まあ、いいや

【Nコード】

N6736Y

【作者名】

美羽派の男A

【あらすじ】

空を見ていたら豆腐が落ちてきて、顔面に当たりショック死
そして、神様が可哀想だから、転生させてあげるといい、お言葉に甘えて転生、そして、転生先は「パパのいうことを聞きなさい」の世界だった。

これから始まる、どたばたネタ有り、恋有りの物語

作者は初心者です、コメントをくれれば嬉しいです

説明

えっと、こんにちは、もしくは、こんばんは。

この作品は僕の好きな作品「パパのことを聞きなさい」の二次創作です。

この作品は転生物です。バトルは有りません。

まあ、当たり前ですけど。駄文です・・・まあ、書いている内に治して生きたいです。

そして、独自解釈などいろいろありますが、気にせずに読んでくれると嬉しいです。

そして、作者は受験生です。あんまりかけません、ですけど、受験が終われば、たくさん書きたいです。

そして、自分は空派ではなく美羽派です。

無印く転生編く（前書き）

どうぞ、駄文ですけど

無印く転生編く

主「あれ？ここてどこだろう？」

神「ここは、あの世じゃ」

なにを言っているんだ？このはげて白い羽を生やした痛い爺さんは

神「お主は死んだんじゃよ・・・」

主「は・・・死んだ？それは、嘘でしょ、僕はただ新刊を買いに本屋に入って帰ってる途中で上を向いたら豆腐が降ってきて、それを顔面に喰らっただけだよ・・・死ぬ要素なんて、どこにもないじゃないですか」

神「ふむ、では、これを見ているのじゃ」

といい神様（痛いじじい）はPS を僕に渡してきた

主「え・・・これは？PS ？」

神「そうじゃ、P P じゃ」

なんで、PS 渡されたんだ？あれ、勝手に電源が付いた・・・

そして、画面内から動画が移りだした

く画面内く

一般人A「おい！なんか、豆腐が顔面に当たって倒れたぞ！」

一般人B「なんで、上から豆腐降って来たの？」

一般人C「それより……この本……」

一般人E「それを言うな……」

医師「死んでいます……」

一般人達『マジで？』

医師「マジです」

↓終了↓

はは……なにこれ……よく出来てるな〜最近のドッキリは……

神「これは、ドッキリじゃないぞ……」

主「嘘だ〜、そんな、豆腐が空から降って来て死ぬ人なんて、居るわけ無いじゃん」

神「現にわしの目の前に居るんじゃが」

そう言いながら、僕に指を差してきた

学校で人に指差すなて習わなかったの？

主「神様……指差さないください」

神「おう・・・すまんすまん」

（１０分後）

神「という訳でお主を転生させてやる」

主「まじすか？」

神「まじじゃ」

よっしゃー、第二の人生来たー！！

しかも、なんか、スキル付けてくれるらしいから、ラッキーだぜ

神「決まったかの〜？」

主「神様その前にさどこの世界に行くの？」

神「別にどこでもいいぞ・・・例えば、Fateの世界とか」

主「あれ？神様Fate知ってるの？」

神「当たり前じゃ、天界では有名な作品じゃぞ」

へえー、有名なんだ、と、その前にどこの世界に行くか決めないと・

主「学園黙示録・・・死ぬな・・・Fate・・・巻き込まれて死ぬな 北斗の拳・・・チンピラに殺されるな・・・」

そう考えてるとき、僕のポケットに携帯電話があることに気づいた

主「まあ、携帯で探すのもいいか・・・」

といい、僕は携帯を開いた

主「あ・・・この世界いいな」

主「神様決まりやしたぜ」

神「どこじゃ？」

主「パパのことを聞きなさいと言う小説の世界に行きたい」

神「本当にそこでいいのか？」

主「ああ、大丈夫だ」

神「では、世界は決まった、次はスキルじゃな」

もうスキルも決まってるぜ

主「無窮の武練と黄金律と怪力のスキルを頂戴な」

神「ふむ・・・いいじやろう」

主「ちなみに、全てEXでよろしく」

神「欲が強いのかまあ、いい姿はわしが勝手に決めとくからの」

そういうと、神様はP S を持ち、作業を始めた

そして、僕の目の前になにかのデータが出てきた

筋力：D - 耐久：C 敏速：D - 魔力：E 幸運：E X

スキル：無窮の武練：E X 黄金律：E X 怪力：E X

神「これでいいかの？」

主「十分だよてか、なんで、F a t e 風？」

神「気分じゃ」

（10分後）

神「では、楽しんでくるんじゃないぞ」

主「言われなくても、じゃあな」

そっつい僕は落ちていった

無印〜転生編〜（後書き）

筋力とかいろいろありましたけど、スキルと幸運以外あんま意味ありません

そして、最後まで読んでくれてありがとうございます。
駄文ですが感謝です

無印〜過去編1〜（前書き）

駄文をどうぞ

無印 過去編1

さて、僕が転生して5年目の夏が来ました……

この5年間原作キャラに会っていません、というか、僕はなんで毎年、東京ビッグサイトに来てるんだろう

始めは、一回も行っていないから「やったぜーーーーー!!!」
!」と一歳の時はそう思ったよ、けどさ、子供の僕が毎年ここに、連れてこられて子供の体力舐めるなよ!!

ま……今年は仮面ライダー龍騎の同人誌でも探すか……

母「どうしたの？奏」

あ……今喋ったの母さん、ちなみに、奏は僕の名前だ苗字は橘合
わせて読むと たうはなかなで 橘 奏

父「大丈夫か？まさか、日射病か？」

奏「いや、父さん、母さん、なにもないよ……」

母「それにしても、やっぱり、奏は女の子ポイわね」

父「そうだな」

そう、俺の容姿は女の子ぽかった……たぶん、神様のせいだ ま・
・ちゃんとスキルが発動してるから許すけど

母「それより、開いたはよ」

父「では、諸君等の無事を祈る」(敬礼)

母(敬礼)

奏(敬礼)

そうして、僕らはそれぞれ自分の趣味の所に歩き始めた

父：アイドルマスターなど 母：デュラララなど 奏：仮面ラ
イダー系

さあ、始めるか・・・戦争を 持ち金(30000円)なんでこ
んなにあるかって？黄金律のおかげだよ

~~~~50分後~~~~

かなり買えたよ・・・ホッパー兄弟、王蛇などちなみに、僕は悪  
役が好きだ

？「お母さん？どこ？」

目の前にうろろろしている、女の子がいる・・・・・・・・え・・・・まさ  
か、コミケで原作キャラに会うなんて

まあ、まずは、話し掛けよう

奏「どうしたの？」

？「お母さんとはぐれちゃったの」

よく思えば、僕と同じくらいの年齢じゃん

奏「一緒に探してあげるよ」

？「いいの？」

奏「いいよ、今暇だったから君の名前は？」

？「私の名前は小鳥遊<sup>たかなし</sup> 美羽<sup>みう</sup>5歳よろしくね」(笑顔

わお、笑顔可愛い

美「お兄ちゃんは？」

奏「僕の名前は橘 奏、美羽ちゃんと同じ5歳、お兄ちゃんじゃないよ」

それから、僕達は探した

~~~~10分後~~~~

美「もう、疲れたよー」

奏「大丈夫？もう少しで見つかると思うから、もうちょっと探してみない？」

美「わかったよ・・・お兄ちゃん」

奏「お兄ちゃんじゃないよ」

- 美羽SIDE -

もう、足がくたくただよ、お兄ちゃんがもう少しで見つかるてさつきから、いつてるけど全然会えないよ・・・

それに、お兄ちゃんもキツそうだし・・・あれ？本当にお兄ちゃんて男の人？

見た目適に女の人に見えるけど？

美「ねえ、お兄ちゃんて男の子だよね？」

奏「うん、そうだけど・・・どうしたの？」

美「なにもないよ」

うーん、やっぱり、女の子ポインだよな

まあ、いいや

あ・・・お母さんたちだ！！

- 奏SIDE -

ぜんぜん、見つからないなーというかどんな人が覚えてない・・・

美「お兄ちゃん、お母さんたち居たよ！！」

お・・・見つかったんだ、よかったじゃん

？「美羽！！大丈夫だったか！」

たぶん、お父さんだな

？「心配したんだからね！美羽！」

お母さん、だな

？「大丈夫だった？美羽？」

お姉ちゃんだな

美「お兄ちゃんが一緒に探してくれたの」

といい、僕に向かって指を指してきた

おいおい、美羽ちゃん人に指を指しちゃいけないってお母さんに習わなかったのかい？

？「美羽！人に指指しちゃ駄目！！」

美「ごめんなさい」

とそんな、やりとりを見ているとお父さんポイ人が僕に近づいてきた

？「ありがとうな、君・・・だが、もし手を出したらクロス！！」

と小声で僕の耳元で言ってきた・・・やばいよこの人！！娘好きだよ！！

それから、何故か写真を撮り別れた

「家」

父「ふー、明日から仕事か・・・がんばるか・・・」

母「そうね、がんばりましょ」

僕の親はとある会社で働いている、まあ、そんな事はどうでもいいや、さて、今日買ったもの見てこよ

「自分の部屋」

いやー、なんて、いい部屋なんだろうこの部屋

僕はベッドにダイブしそのまま眠りについてしまった。

無印〱過去編1〱（後書き）

どうも、最後まで読んでくれてありがとうございます。
どうしようもない駄文です

無印く過去編く（前書き）

無印が続きます。

駄文ですがどうぞ

無印く過去編2く

僕が学校に入って二年が立った

そして、今は昼休み中

1「パス、パス」

そう・・・今僕がやってるスポーツは「ドッチボール」

そして、僕は今コート内で、最後の一人

4「橘さん！！橘さん！！橘さんナズエミデルンデイス！」

橘（ボールを避けながら外野の4を見ている

あれ？あいつ、あんなに発音悪かったけ？

5「ダディヤーナザアーン！！（橘さぁーん！！）へへへ！！ナズエミデルンデイス！！（何故見てるんですか！！）」

奏「お前等！発音が可笑しいよ！！」

突っ込んでいる間に、ボールに当たってしまった・・・クソ！！
あいつら許さない！！

とまあ、いろいろ合った・・・

く一カ月後く

先「あー、橘が引越しすることになった」

クラスメイト『まじかよー！！！』

先「マジだ、ちなみに、先生 彼女募集中だ」

クラスメイト『まじか！！！』

先「今度、合コンやるから 来れたら、この店こいよ」

普通・・・こんな話、転校する日に言うか？

もう、みんな合コンの話で夢中だぞ 俺可哀想・・・マジで可哀想・・・

〓一週間後〓

先「はい、では、今日は転校生を紹介します」

男1「女の子ですか？」

女1「男の子ですか？」

先「うゝん、謎です」

男2「謎てなんですか！！」

先「その言葉の通りです」

女2「見ての楽しみて事ね」

？ 「美羽どんな子だと？」

美羽「うーん、わかんない」

先 「橘君！！入ってもいいわよ」

橘 「こんにちは、今日転校してきた 橘 奏です。これから、よろしくお願いします」（ぺこり

男1「本当だ・・・男か女かわからない・・・」

橘 「男です」

女3「男なんだ・・・」

なに、あの3番目の子・・・百合心があるの？まあ、まだ2年生だから・・・

美羽「あ！！お兄ちゃん！」

？ 「美羽なに言ってるの？」

橘 「えつと、誰でしたっけ？」

美羽「忘れちゃったの？」

（次回に続く）

無印〱過去編〱〱（後書き）

駄文ですどうぞ

設定（前書き）

今回は設定です

設定

名前：橘 奏
たちはなかなで

性別：男の娘

好きな物：ヒーロー物、漫画、小説

嫌いな物：野菜、ゲテモノ、虫、静かなところ、豆腐

好きな人：自分をわかってくれる人、優しい人、気前が良い人

嫌いな人：暴力を振るってくる人、虐めてくる人

スキル：無窮の武練 黄金律 怪力 前世の記憶

無窮の武練：いついかなる状況においても体得した武の技術は劣化しない。

黄金律：人生においてどれほどお金が付いて回るかという宿命を指す

怪力：一定時間筋力のランクが一つ上がる。持続時間は「怪力のランク」による。

前世の記憶：前世で学んだ事、記憶など全てが引き継がれる「運のランク」によって、よりよくわかる

設定（後書き）

これで終わりです

無印く過去編く（前書き）

駄文ですけど
どうぞ

無印く過去編3く

美羽「お兄ちゃん覚えてないの？」

奏「ちよつと、待って今思い出す・・・」

えつと、親戚の井本さんの子供？いや確かあの人今、ブラジルに移住してたし・・・佐久屋さん？いやあの人大阪だ

美羽「お兄ちゃん、美羽だよ」

美羽・・・あ・・・あーコミケの時に一緒に親探して、父親に手出したら殺すって言われて速く忘れよと思って忘れたんだ

それにしても久しぶりに原作キャラにあったなー

奏「久しぶり、それと、お兄ちゃんじゃないよ」

クラスの男子（美羽様にお兄ちゃんて呼ばれて・・・羨ましいぞ・・・）

先「感動の再開はもういいかしら？」

奏「ありがとうございました」

女5「先生席でどこにするんですか？」

男2「先生の隣www」

先 「君は後で職員室ね」

男2 「はーーーー!!!!!!」

先 「ちょうど良い所に美羽さんの隣の席が空いてから、そこで」

男5 「先生そこは、小林の席です」

先 「いいのよ、平日に旅行行くやつが悪いんだから……じゃあ、そこね」

奏 「はい、わかりました」

はあゝ転校て疲れるな……

ゝ席に着きゝ

美羽 「これから、一年よろしくねお兄ちゃん」

奏 「お兄ちゃんは止めてくれ……うん？」

なんか、前世でこんなことあったな……

美羽 「どうしたのお兄ちゃん」

奏 「なんでもないよ」

えっと……思い出した

ゝ思い出しゝ

『おはようございます　様』

『おはようございます　様』

「虐めか！―それいい初めてから、周りの目線が痛くなってきたんだよ――！！」

『それは、悲しいです　様』

「まじで、やめてくれよ――！！」

（終了）

確か中三の時だったな……

？「美羽……あの子、なんか、苦しそうな顔してるよ」

美羽「そんなに私の隣が嫌だったのかな……」（涙目

クラスの男子（泣かせたら……殺す――！！

この時、クラスの男子が一致した奇跡の瞬間だった

奏「先生……保健室にいてもいいですか？」

先「いいけど、場所わかる？」

奏「大丈夫です、運がいいほうですから」

EXだからだね

く廊下く

あれ？本当に保健室どこ？

マジで、わからない．．．．．

そうだ、よし、OKこれは、罨だ．．．この学校に保健室が無い
と思わせる．．．罨だ！！！！

ま．．．冗談はこれまでにして．．．確か母さんが道わからなくな
ったら聞きなさいて言つてたから

あの人に聞いてみよ

奏 「すいません、保健室でどこですか？」

？ 「え．．．」（後ろに引く

見られた瞬間にこれで酷い．．．

く次回に続くく

無印〱過去編〱（後書き）

すいません学校に行かないといけないので

これで

無印〰過去編4〰（前書き）

駄文ですけど、どうぞ

無印く過去編4く

ここは、謝るべきだな

奏 「あの・・・なんかすいません」

しかたない、自分で探すか・・・はあー、初対面の人に引かれるなんて悲しいな・・・

？ 「ま・・・前!!」

うん？ なにか言ってる・・・・・・・・・・て、ぎゃーーーー！！！！

そして、僕は会談から落ちた・・・そこから病院に運ばれ一時間くらい気を失ってたらしい

く病院く

医 「いやく、それにしてもすごいねー、まさか、頭から落ちて死なないなんて、君はなんだい？ 化物かい？」

奏 「化物ではないです」

医 「まあ、いいや、頭の包帯は外さないでね」

奏 「はあ・・・わかりました・・・」

く家く

父 「大丈夫か？ 痛くないか？」

奏 「痛くないよ・・・」

母 「思えばそろそろ行く時間ね」

奏 「いくてどこに？」

父 「ああ、父さん達会社転勤になっただろ、それでな、優しい夫婦がな、家に招いてくれるから、お言葉に甘えて行こうて話なんだ」

奏 「僕も行つていい？」

母 「大丈夫よ、奏と同じ歳の子供が要るらしいか、遊んでもらいなさいよ」

奏 「ありがとうね」

〳優しい同僚の家の前〳

父 「こんばんはー」

？ 「よく、来たな中に入りなよ」

母 「ありがとうございます」

奏 「ありがとうございます」

？ 「君頭大丈夫？」

奏 「大丈夫です」

〳親切な人の家の中〳

うはー、でかい、広い……すごいなー、この広さ異常だよ

最近ぜんぜん、原作を思い出せなくなってきたけど……まあ、いいや

母「あ……祐理さん、お邪魔してます」（ペコリ

祐理「よく、来たわね」

笑顔で迎えてくれた

母「息子の奏です。」

祐理「本当に女の子にそっくりね、よろしくね奏ちゃん」

奏「僕は男なので君だと思えます、こちらこそよろしくお願いします」

祐理「信吾さんも挨拶してください」

信吾「わかった、僕の名前は信吾よろしくね、奏君」

奏「こちらこそ、よろしくお願いします」

（5分後）

？「パパお風呂でたよ」

僕がちょうど、「戦争論」を呼んでいると、信吾さん達の子供が来

たらしいです

？ 「パパ、この人たち誰？」

父 「こんばんは、お譲ちゃん達、僕と妻は君のパパが働いてる会社の同僚だよ、こら奏！挨拶しなさい」

奏 「わかったよ・・・僕は橘 奏よろしくね」

？ 「え・・・あなた？まさか、今日階段から落ちた子？」

奏 「え・・・僕の事知ってるの？」

？ 「うん、今日私の目の前で階段から落ちた子でしょ・・・」

えーと・・・話しかけて引いた子だ・・・

奏 （悲しい顔まさに、これ（――――）

？ 「・・・なんかごめんね」（謝罪

奏 「いえ・・・きにせずどうぞ」

こうして、僕はマイナスのオーラを50分間放ってた（大人達は酒を飲んでテンションがハイになっていた

祐理「今日はもう、泊まっていきなよ」

母 「そうさせてもらうは！ー！」

信吾「君も酒もうちよつと飲みなよ!」

父「ええ・・・では・・・」(飲む)

奏「すいません、眠くなってきたので寝たいのですが、どこで寝たらいいですか?」

祐理「別にどこでもいいわよ、奏ちゃん」

奏「わかりました、それと、君だと思っています」

さて・・・どこで寝ようかね〜

この時僕はもうマイナスオーラを放っていなかった

?「さっき、言い忘れたけど、私の名前は空よろしくね」

奏「ええ・・・よろしくお願いします」(ふらふら

空「ふらついてるけど大丈夫?」

奏「眠いです・・・」

空「どこで寝る?」

奏「どこでもいいです・・・ZZZZ」(あまりの眠さに倒れる

空「倒れちゃった・・・ねえ、美羽どうすればいいと思う?」

美羽「ZZZZ」(寝てる

空 「どうすればいいのよ!」

大人達（宴会中

（翌朝）

どうやら、僕はいつの間にか寝てしまったようだ・・・さて、おきて毎朝のジョギングをしなければ・・・

あれ？動けない・・・なんでだ？まさか、金縛り？

あれ？暖かい・・・なんだろう、呼吸音が聞こえる・・・

そう思い、僕は横を向いた・・・そうすると、空さんが居た・・・

奏 「!?!?!?!」

あ・・・なんか、今更だけど、思い出した・・・空さん・・・低血圧で人に知らない間に抱きついて暖を取るんだ・・・

みんな、羨ましいかい？なら、変わってくれよ・・・僕今、空さんに腕挫十字固されて、間接決まってるんだよ

美羽「はー（アクビ）あ・・・お姉ちゃんずるい!」

だからって、その上に乗らないでくれ!!!!

と、まあ、いろいろあった・・・

次回原作入り

無印〰過去編4〰（後書き）

駄文ですがすみません

夏休み（前書き）

駄文です

夏休み

僕が五年になって夏休みが来た。

いつもなら、毎年どおりコミケに行くはずだったが、父さんと母さんが小鳥遊（美羽の母さんと父さん）さんと一緒に海外出張に行った。

ちなみに、僕は家で一人・・・暇だ・・・美羽さんの家にも行く・・・例えば、空さんにやられてからトラウマになっていこうとしなかったんだよねー。

そう思い僕は小鳥遊さんの家に行くことにした。

だが、この時僕は知らなかった・・・

く小鳥遊く

奏 「こんにちは」（ドアを開ける

あれ？鍵が開くのになんで、誰もいないんだろう？けど、靴はある・・・

そう思い、僕は自分の記憶を思い出し広間に移動した・・・

く広間く

あれ、泣いてる？なんでだろう

空さんは泣いてて、美羽さんも泣いてて、ひなちゃんが寝てる・・・
・ちなみに、ひなちゃんも美羽さんの妹らしい。

奏 「あの・・・どうしたんですか？」

空 「グス・・・パパ達が・・・死んじゃった・・・」

奏 「え・・・どうして死んでしまったんですか？」

～説明中～

そんなあ・・・飛行機が・・・落ちたなんて・・・信じられない。

そんなこと、ドリフの劇でもないんだから。

そうだよ、これは嘘だよ

奏 「嘘・・・ですよね？」

美羽 「嘘じゃないわよ!!」

・ はうあ!! 怒られた・・・という事は・・・これは、真実なのか・・・

奏 「まさか・・・本当ですか？」

美羽 「だから。そうって言うてるじゃない!!」

奏 「すいません・・・」

美羽「こつちこそ・・・ごめん・・・」

まさか・・・本当だったとは・・・

だって、飛行機が落ちるなんて約三百分の一の確立なんだから・・・

あれ？今思った・・・僕の家に関係なかったんだ・・・

どうしよう・・・

まあ、まずは自分の家に戻って・・・

奏「ごめんね・・・帰るよ・・・」

～家～

まずは・・・母さんの部屋だ・・・

～母さんの部屋～

えっと、まあ適当に探すか・・・

～30分後～

同人誌とかいろいろ出てきた・・・後、アルバムがでてきた それ
と、通帳と判子・・・

通帳の中の予算額は・・・ハ！！ 1、2、3、4、5、6、7、
8、9、10、11、12桁・・・まさか、これ黄金律のおかげが
？そうだよな・・・すげーよ

次は父さんの所だ

く父さんの部屋く

さて、どこから探すか

く30分後く

なんか……あれがでてきた……（作者の自主規制

それと……こつちも通帳と手紙（？）と写真となんだ？これ暗号？

写真には……大学のときの友達……すごいな……太い人が
いる……えつと……佐古俊太郎？誰だこの人？

それから、通帳を見てみた、こつちも同じ、桁だった……金あ
りすぎ……流石黄金律：EX

手紙は、え……困ったら佐古君を頼ってくれ……後、もし死ん
だら葬式開かないでねよろしく、じゃ、ノシ」

佐古さんはわかったよ、葬式も開かなくていいんだね、ノシでチャ
ットかよ！！て突っ込んだら涙が出てきた……

そうして、僕はその日寝てしまった

く終わりく

夏休み（後書き）

駄文でした

俺を見捨てないでくれ!! (前書き)

駄文です。

それと、コメントありがとうございます。

俺を見捨てないでくれ！！

〔瀬川 祐太SIDE〕

こんにちはもしくは、こんばんは瀬川祐太です。

「こいつ誰？」て思った人は・・・いますね・・・

作者「瀬川さんは、祐理さんの弟だよ・・・はい、解説終了！！」
解説すくない！！俺で一応主人公だよね！！と、心中の叫びはやめて・・・と・・・

瀬川「タイミングなくしちゃったな・・・」

そんな言葉が思わず口をついて出た

ショックが大きすぎたつてもあるし、現地調査だの事故調査がどうだのって起こったことが大きすぎてまるで、現実感がわかなかった。

今頃になってやっと実感がわいてきたっていうのに、周りはすっかり涙も枯れ果てている。これじゃ、泣きたくても泣けないや。

伯母「祐太さん」

瀬川「あ・・・伯母さん・・・」

伯母「私はそろそろ帰りますけど、祐太さんはどうするの？」

瀬川「俺ももうちょっとしたら、帰ります」

そう言つて立ち上がった時だった俺の耳に、ひとつの言葉が飛び込んできた。

A「空ちゃんは誰と暮らすのがいいかな」

B「うちは年頃の男の子がいるから・・・ちょっと難しいわ。ひなちゃん一人なら、考えなくも無いけど」

作者「話長くなるから、飛ばすぜ・・・答えは聞いてない」

瀬川「ちょ！待て」

伯母「祐太さんなに言ってる？」

瀬川「いや・・・なにも・・・」

～10分後～

まあ、いろいろあつて、三人は俺が引き取ることになった

作者め飛ばしやがつて

～奏SIDE～

まあ、一応僕は、美羽さんのお母さんとお父さんのお葬式行つたよ・・・

けど、あんまり覚えてないんだ・・・気晴らしに本屋にでもよろ

く本屋く

・・・・・・はあ

最悪だ・・・・なにも、やる気が起きない・・・・

なんで、僕は転生したんだろう・・・・ふと、そんな事を考えてしまった

そして、僕は思いついてしまった・・・・死んでしまえ・・・・どんだけ楽になれるだろうか・・・・

そうだ・・・・死んでしまおう・・・・どうせ、僕はこの世界にいても意味が無いんだ、なら、死んでしまえばどれだけ楽か・・・・

そう思い、僕は自殺辞典という本を1200円（税込み有）で買った。

くそれから、一週間後く

僕はまだ死んでなかった・・・・死のうと頭をタンスの角にぶつけるが生きてた・・・・

首を吊ろうとしたら、そのヒモが切れて顔面から床にダイブ・・・・そして、あれこれやり一週間がたった日だった

ピンポーン

なんか、久しぶりに聞いた音がした

〜次回に続く〜

俺を見捨てないでくれ！！（後書き）

駄文ですがすいません、

ちなみに、奏君は今死にたがり状態です

どうせ・・・俺なんて・・・（前書き）

どうぞ、駄文ですけど、お願いします。

どうせ・・・俺なんて・・・

奏 「はい」(ドアを開ける

美羽 「あの・・・今大丈夫？」(おどおど

なんで、おどおどしてるんだろう？・・・ああ、そうか、僕の手は傷だらけで、首にも傷の跡・・・そりゃあ、怖いよね・・・

奏 「大丈夫だよ・・・」(作り笑顔

美羽 「ありがとう・・・」

くロビーく

奏 「えっと、お茶でいいかな？」

美羽 「うん、ありがとう」

く5分後く

奏 「どうぞ」

美羽 「ありがとう・・・」(奏の手首を見て

美羽 「ねえ、手首の傷でどうやってできたの？」

なんだ、そんなことが・・・

奏 「自分でやったんだよ・・・」(作り笑顔で

美羽「な・・・なんで、そんなことを？」

どうやら、美羽ちゃんは怖がってるらしい・・・だけど、質問されてるから、答えないといけないんだよね

奏 「それはね、もう、辛いんだよ・・・」

美羽「え・・・」

奏 「僕ね、親戚がいないんだよ・・・それに、心配してくれる人もいないし、愛してくれる人も、もういない、それに僕を見ればみんな「可愛そう」、「痛そう」、「お大事に」とか・・・僕の事を悲しい風にしか、見てくれないんだよ。それでさ、いろいろ考えたんだよ、どうせ、僕なんて生きていても仕方が無い・・・生きていた所で誰も心配してくれない、どうせ、僕はずっと悲しい人ていうレッテルを貼られながら生きてくのさ・・・それなら、死んだほうが楽じゃない？だって、そうでしょ、死ねば母さんと父さんに会えるんだよ・・・そんなに、幸せなこと無いじゃん・・・違うかい？」

美羽「・・・」

奏 「ごめんね、こんな、つまらない男の子と喋っていてもつまらないでしょ・・・」

美羽「そんなことないよ・・・」

奏 「思えば、美羽さん達はあの後誰に引き取られたの？」

美羽「お兄ちゃんが引き取ってくれた・・・」

奏「そう・・・よかったじゃない・・・」(笑顔で

美羽「ねえ、奏君・・・奏君の笑顔でぜんぜん笑ってるように見えないよ・・・ねえ、奏君ちゃんと、笑ってよ・・・お願い」

奏「ごめんね、美羽ちゃん・・・もう、ちゃんと笑えないんだよ」

美羽「嘘よ・・・」

奏「嘘じゃないよ、僕はもう作り笑いしかできない・・・そう
だ、美羽ちゃん・・・僕ね・・・君が好きなんだよ・・・今まで、言
えなかったけどさ・・・けど、こんな僕に告白されても嬉しくない
よね・・・」

美羽「え・・・」

奏「ごめんね、こんなこと言って、だけども、美羽ちゃんは僕の
事好きじゃないでしょ・・・」

美羽「好きよ・・・」

奏「え・・・冗談でしょ・・・」

美羽「冗談じゃないわよ！本当よ！-!」

奏「そう・・・ありがとう・・・帰りなよ、そろそろ帰らないと空

さんとか心配するよ」(イスから立ち上がり

美羽「うん・・・また、今度ね」

いい子だね・・・だけど、僕は今夜自殺するよ・・・

～夜～

やっぱり、首吊りだね・・・そういい僕は、山登りに使うロープを購入した

～裕太SIDE～

あれ？あの子、お葬式の時にいった子だ・・・だけど、なんでロープを持って山に向かっているんだ？

そう思い、俺はその子の跡を着けていった

～10分後～

あの子ロープを木の上に縛り付けて首を吊ろうとしてる・・・止めないと

瀬川「君！！なにやってるの！」

奏「あ・・・こんばんは、僕はただ自殺をしようとしているだけです・・・」

瀬川「なんで、自殺なんか・・・」「疲れたからです」え・・・」

奏「僕はもう生きたくないんです・・・」

瀬川「はぁー、まあ、いいや一旦こっちに来てくれ」

奏「？」（近づく）

瀬川「いいか、よく聞けよ」

奏「はい」

瀬川「ふー、俺の好きな言葉でな、こんな言葉があるんだ諦めたら、そこで試合終了・・・今まさに、お前はその状態だ」

奏「なるほど・・・僕が・・・うん、その通りだ」

瀬川「というか、今のセリフ関係ないけどさ、お前の体とか見る限り・・・お前死ねないんじゃないのか？」

奏「は・・・？」

瀬川「だって、深く傷跡が有るのに、生きてるし、首を何回も締め付けた跡があるけど、死んでないし・・・」

奏「死ねないのか・・・仕方ない・・・納得できないけど・・・生きてみるか・・・」

そうして、僕は自分の家に帰り・・・寝た・・・そうだ、明日、佐古さんの所を訪ねてみよう・・・

どうせ・・・俺なんて・・・（後書き）

かなりの駄文ですけど。
すいません。

DEAD END回避

納得できない方はすいませんでした!!

そっだ・・・俺には明日がある（前書き）

駄文です。

そっだ・・・俺には明日がある

く??

あれ？ここはどこだろう・・・

神 「また、会ったな・・・少年」

奏 「あ・・・神様、お久」

神 「お久」

奏 「なんで、僕はここにいますか？」

神 「いや、お前に一つ言いたい事があって」

何をだろう？僕にまた、何かくれるのかなー？

神 「よし・・・一度しか言わないぞ・・・お前死にすぎなんだよ！・・・！！」

奏 「え・・・？」

神 「だから、お前死にすぎなんだよ！・・・！どんだけ、俺の仕事増やすんだよ！！」

奏 「え・・・俺死んでたんですか？」

神 「は・・・死んでないと、思ってたのかい？お前バカだろ・・・

・出血多量で死なない奴なんていないぜ・・・それでさ、お前が死んでこつちくる、俺が現世に返す・・・お前またくる・・・また、返すの繰り返し・・・疲れるんだよ!!」

奏 「すみません・・・」

神 「わかればよろしい」

奏 「あの・・・母さんと父さんて今どこにいるんですか？」

神 「ああーお前の父さんなら「IS」の世界に転生して・・・母さんは「めだかボックス」の世界に転生させたよ」

奏 「え・・・転生させた？」

神 「うぬ・・・だってさ、お前さんの親だからさ・・・転生させた方がいいかな？て・・・あ、それと伝言があるぞ」

奏 「？」

神 「確か「どうせ、生きて80年の人生だそれが、速まっただけだ、気にするなよ、大変になるのはわかるけど、それが人生というものだ、今はキツクてもいつか楽になれる」だそうだ」

なんて、いい加減な親なんだ、けど・・・いい親だったな

神 「では、用事は以上・・・じゃあな」

奏 「さようなら」

神 「おっと、忘れてた・・・これは、前世お主の部屋にあった物じゃ、持ち帰って遊ぶがいい」

あ・・・やった、オーズドライバーとコアメダルとかいろいろ全部ある

神 「だが、あの世界の本はなしじゃぞ、ではな」

そっいい、僕は現世に戻った。

そうだ・・・俺には明日がある（後書き）

駄文でしたけど。

美羽様のキャラソン三枚買いました――――！！

後はねんどろいど、だけです

これからも、応援よろしくお願いします。

みんなとワイワイ、ガヤガヤ、ザワザワ（前書き）

駄文ですけど

気づかない、うちにお気に入り登録数が23件も！！

皆様ありがとうございます！！！

これかも、駄文ですけど、がんばらせていただきます！！

みんなとワイワイ、ガヤガヤ、ザワザワ

く朝く

ふー、さて、今日は佐古さんの家に行く予定のはず……

く昼間く

奏 「えっと、ここが多摩文学院大学でいいんだよね？」

そう言い彼は、大学の中に入るときだった

警備員「君！！勝手に入っちゃ駄目だよ！！」

奏 「え……ちょ……」

そう、奏は忘れていた……警備員がいることを

く大学内く

あの後、いろいろ言いくるめなんとか、学校の中に入れた……
というか、なんで、警備員が佐古さん知っているんだ？

そんなにすごい人なのか？それとも、ただの先生なのかどっちだろう？

く路上観察研究会ドア前く

え？路上観察？なに、ホームレスでも観察する所なの？

もしくは、路上の作りを観察するかい？あー、考えてるとだんだんわからなくなってくる……。まあ、中に入ろう……

〈中〉

中は誰もいなかった……。・

なんで？まさか、部屋を間違えた？それとも……。はめられた！
！！

くそ、警備員！！はかったな！！まさか、僕はこれから拉致られるのか！！

あー、どうしよう！僕はまだ、死にたくないし！！てか、死んだけどwww

それより……。あの、ダンボールの中身でなんだろう？

そう思い、僕はダンボールの中身を空けた……。・

入っていたのは、ネコミミメイド系のエロ本などなど

奏 「……。なに、これ？怖い？」

その時、ドアが開いた

？ 「ふー、疲れた……。うん？」

と、太った眼鏡を欠けてる人はこっちを見てきた

は……エロ本片手に立ってる僕で……

？ 「君はまさか…… 君の息子かい？」

奏 「はい……そうですけど」

「いろいろ説明中」

佐古 「なるほどー……君の父上が困ったら来いて言ってたんだな」

奏 「ええ……そうなんですよ」

佐古 「だが、今日僕は瀬川君の家に行かないといけないし……そうだ！君の家は開いてるかい？」

奏 「ええ……空いてますけど？どうしてですか？」

佐古 「今から……パーティーだ」

そっつい、佐古さんは電話をし始めた……僕の家知ってるんですね。

「MY 家」

いや、まさか、僕の家でパーティーをするなんて、幼稚園以来だなー

あ……ちなみに、今佐古さんがみんなを迎えに行ってるらしい。

さて、暇だ……。そうだ、前世の物があるんだ、久しぶりにそれで遊ば……

さて、コアメダルが全部ある……。よし……。遊ぶか

奏 「あ……。ちゃんと、付けれる……」

僕はオーズドライバーを腰に巻き、三枚の穴の中にコアメダルを入れて遊んでた

奏 「やつぱり、ガタキリバが好きだね」

ベルト音「クワガタ！カマキリ！バッタ！ガータガタガタキリツバ！ガタキリバ！」

おー、ちゃんとなる

く 佐古SIDEく

なんか、玄関を開けてなにか聞こえると思ったら、なんか、変なベルトで遊んでるじゃないか

彼にも、あんな風に遊ぶときがあるんだな……

く 奏 SIDEく

次は、シャウタだ……

ベルト音「シャチ！ウナギ！タコ！ シャシャシャウター！シャシ

ヤシャウター！」

おー、懐かしいな〜

ひな 「おいたん！変な音が聞こえる！」

瀬川 「本当だな、ひな」

？ 「こりゃないわ」

空 「うん、これはない」

奏 「な・・・なんで、ここにいるんですか？というか・・・
ナズエミデルンディス！！（何故見てるんです！！）」

空 「それよりも、久しぶりね」

奏 「僕の質問は無視なんですか！」

瀬川 「あ・・・自殺しようとしてた人」

奏 「また、ですか！！」

？ 「あ・・・謎の人」

奏 「また、ですか！というか、あなたは誰ですか！！」

ひな 「知らないひと」

奏 「僕も知りませんよ！！」

佐古 「あ……連続強盗犯!!」

奏 「佐古さんあなたもですか!!…てか、してませんよ!!…!!」

美羽 「あ……奏君だ」

奏 「あ……美羽さんだ」

？ 「言動がおかしい人……」

奏 「もう、いい加減にしてください!!」

この時僕は最高に楽しかった……

く次回に続く

みんなとワイワイ、ガヤガヤ、ザワザワ（後書き）

駄文ですけど、ありがとうございました！！

作者と神様（前書き）

今回は・・・なにがしたいんだろう・・・

ちなみに、コメントが作者の原動力です。

いつもどおりの駄文です。

作者と神様

作者「それにしても美羽ちゃんのキャラソン三つ買ったぜ」

神様「ほー、珍しい、いつもCDを買わない作者が三つも買うなんて、ちなみに、空ちゃんは？」

作者「僕は美羽ちゃん一筋ですよ？」

神様「ということは、買ってないんだな」

作者「YES!!」

神様「で、美羽ちゃんのCD聞いたのか？」

作者「ああ、聞いたぜ最高だった」

神様「この美羽コンめが・・・」

作者「それにしてもさー、話変わるけど、デトロイト・メタル・シティDMCて面白いよね」

神様「俺は嫌いだ」

作者「貴様！それは、クラウザーさんに対する冒瀆か!!! SATUGAIするぞ!!」

神様「俺はかみだぞ、貴様が勝てると思うのか？」

作者「ここは、俺の世界だ!!」

作者「聞こえる・・・D M Cファンのみんなの声が！！俺の体をみんなに貸すぞ！！」

そついい、作者はギターで神様を鈍殺した

D M C 信者「でたーーーー！！！！あれは、クラウザーさんの技を真似した技！」「非常なるギター（真似）」「だーーーー！！！！！！」

こうして。第一次神様合戦が終わった

作者と神様（後書き）

すいません、遊んでしまいました

駄文でしたがどうぞ

は・・・・・・・・殺気!!（前書き）

駄文ですけどお願いします。

いつのまにか、26人もの人がお気に入りリストにいられてくださいました!!

こんなに、嬉しいことはありません!!

は・・・・・・・・殺気！！

（話し合い中）

奏 「なるほど、美羽さん達の叔父が瀬川さんだったんですね・
・世界で狭いんだね」

瀬川 「そうだな・・・・・・・・せまいな・・」

ちなみに、今織田さんと仁村さんと言う人が料理を作っていて、佐古さんと空さん達はテレビゲームをしています。

ちなみに、空さんは今怒っています・・・・・・・・なんで、怒ってるのかは瀬川さんから聞きました。

どうやら、空さんがおばさんと言われたらしいです。

ちなみに、美羽さんは美羽様と呼ばれたらしいです。

そして、今やってるゲームは前世僕の部屋に有ったゲームをいまやっています。

あー、久々に見るなこのゲーム・・・・・・・・案外面白いんだよなー

そう思ってる間に、鍋ができて机の上に置かれた・・・・・・・・あ、思い出した、飲み物がないんだ・・

奏 「飲み物買ってきますけど、みなさんなにがいいですか？」

作者 「コウモリの生き血で・・・」

なんか、今変な声が聞こえた・・・まあ、いいや

僕はみんなからの買ってきてもらいたい物を聞き、買いにいった・
・ちなみに、美羽ちゃんが一緒に行きたいといったから、一緒に
いくことになった

～マート 福沢～

いや～、安いな～こんなに安いなんて嘘みたいだよ

美羽 「ちゃんと、立ち直ったんだね」

奏 「うん、立ち直れたよ・・・」

美羽 「おめでとう」(笑顔)

奏 「笑顔は反則だよ・・・」

美羽 「なにか、言った？」

奏 「なにもない」

こんなやり取りをしながら僕達はマート福沢を後にした

～次回に続く～

次回予告

テメエー・・・兄貴を何見てんだ！・・・！ゴラァー――――

は・・・殺気!!（後書き）

駄文です。

すいません

兄貴は・・・うん・・・(前書き)

駄文ですが、すみません

いつの間にか、56pt!!

ありがとうございます!!!!

兄貴は……うん……

さて、頼まれた飲み物と美羽さんが食べたいと言ったアイスを買
帰る途中だった。

チン１ 「おい！テメエーなに見てんだよー！」

何か金髪でピアスしてる人がこっち見てくるよ……

奏 「いえ……ピアスしてて痛くないのかな……って思っ
て」

チン１ 「痛くねー……んだよー！！！！！」

奏 「えー……、本当ですかー……強がつてるだけじゃないん
ですか？」

美羽 「か……奏君……」

チン１ 「テメエー……いい加減にしろよー！！！」

そう言いチンピラが殴りかかってきた……まあ、喰らえばいいか

奏 （喰らい吹っ飛ぶ）

やっぱり、痛いや……まあ、いいやどうせ

奏 （立ち上がり）「で、ピアスで痛くないんですか？」

チン１ 「こいつ・・・君ワリーーーー・・・」

あー、逃げてくよバイバイ！！

美羽 「大丈夫？」

奏 「大丈夫だ、問題ない」

美羽 「本当に」

（１０分後）

かれこれ、１０分たった美羽さんは先に帰ってもらい・・・僕は今チンピラに囲まれています

何故囲まれてるか？簡単だよ、あのチンピラ仲間呼んできたんだよ

チン１ 「兄貴こいつです！！兄貴を馬鹿にしたやつは！！」

馬鹿にした？僕が？した覚えがないんだけど・・・

チン２ 「おい！！殺ちまおうぜ！！！」

仕方ない・・・これは、最後の手段だけど使うしかない・・・あれ？あのデブの人が兄貴？

チン１ 「テメエー！！何兄貴見てんだ！！SATUGAI（殺害）するぞ！！！」

作者 「SATUGAIするぞ！！」

兄貴は・・・うん・・・（後書き）

駄文です、すいません

さあーーーーて、やったことはやってもいいことだよな？（前書き）

駄文ですけどどうぞ

さあーーーーて、やったてことはやってもいいことだよな？

く家に帰りく

奏 「ただいま、戻りましたくく」

あの後、いろいろ会ったが、まあ、そこは気にしないでください

瀬川 「あれ？美羽ちゃんと一緒じゃないの？」

あれ？可笑的い・・・先に帰っていてと言ったはずなのになくく

奏 「あ・・・すみません、買い忘れ物が有ったので買ってきます」

く外く

さて、さっそく使う時が来た・・・兄貴

兄貴 「おう、サモだがどうした？」

奏 「あー、すみませんサモさん僕の知り合いの女の子が行方不明になったので、捜してもらえませんか？」

サモ 「いいぜ、さて、特徴とかはないのか？」

奏 「黄色い髪の毛で美人で女神で黒い服に兎のマークが有って英語？でCRAZY RABBIT COMMING
SOON！と書いてあります」

サモ 「えっと、黄色い髪の毛で、黒い服に兎のマークな……」

奏 「あれ？二個無視しましたよね？」

サム 「お……いたぞ、流石サモネットワークだ これは、裏路地だな……」

奏 「感謝しますよ……サモさん」

（裏路地）

不良1 「それにしても今日はいい日だな……！」

不良2 「ああ、こんなロリッ娘を捕まえられるなんて最高だな……！」

不良3 「おい……誰か着たぞ……！」

不良4 「なんか……女か男かわかんない奴が来た……！」

不良1 「意味わかんねーよ……！」

不良2 「まさか、男の娘か？」

不良3 「わ……わかんねーけど、なんか、「越後ヤ……」
「……………」て言いながら走ってきてる」

不良1 「なんだそれ？」

奏 「ちちゃな頃からロリコンで、十五でヘンタイと呼ばれたよ・

・・・けど、僕はロリコンじゃないけどね」

不良2「なんだ・・・こいつ・・・」

奏「僕はただ美羽ちゃんを助けに着ただけだよ」

不良1「お・・・おい、絞めちまおうぜ!!!」(鉄パイプ持って

作者 (天界からギターを落とす

不良3「うわ!なんかギター降ってきた!!」

奏「ちょうどいいや」(ギターを持ち

作者 (天界からコンクリート並みの硬さを誇る豆腐を落とす

不良4「あ・・・・・・豆腐が空から・・・・・・ぎゃーーーーー

!!!!!!!!!!」

なんだ・・・あの、DESUTOUHU(デス・豆腐)は・・・

奏「まあ、いいや・・・食らえ!!」(ギターを一の顔面に
振り落とし

不良3「出たあ!謎の男の娘の必殺「竹割り」だ~~~~!!!!!!」

なんか、謎の技を言っているや・・・

不良2「これは無いは」

不良1「てか、元の奴でも駄目だろwww」

不良3「それはDMCに対する冒？か！」

そついい、不良達は仲間割れをし始めた

奏「さて、美羽さん帰りましょうか」（笑顔で

美羽「え……うん」

〽一応歩いている〽

奏「ごめんね、一人にさして」

美羽「え……うん、気にしないで」

奏「これじゃ、駄目ですよね……」

〽次回に続く〽

〽次回予告〽

いや、俺はそんな趣味ないっす
誰か！助けてくれ！！
俺、
美羽さんのことが好きです！！

さあーーーーて、やったてことはやってもいいてことだよな？（後書き）

駄文ですけど。

読んでくれたらうれしいです

限界突破!!.....飲みすぎた.....(おろおろ(前書き)

駄文ですけどお願いします!!

限界突破！！・・・飲みすぎた・・・（おろおろ

自分の家）

やっと、鍋が食べれる・・・

僕は織田さんという人に具をよそつてくれたお皿を貰った

奏 「それにしても、多数で食べるほうが美味しいですね」

仁村 「思えば、奏君の家族はどうしたの？」

佐古 「仁村君！それは！」

奏 「いいんですよ、佐古さん、小村さんだって業とじゃないんですし」

仁村 「ありがとう、後小村じゃなくて仁村だよ」

奏 「すいません、小村さん業とじゃないんですよ、許してくださいよ」

仁村 「小村じゃなくて、仁村だ」

奏 「すいません、小谷さん、間違えました」

仁村 「だから、仁村だって！！というか、小谷で誰！！」

奏 「その内であるじゃないですか？小村さん」

仁村 「でるてなんだよ、だから、仁村だ」

このやり取りが30分続いた

そして、佐古さんがお酒を飲んで狂った……

佐古 「瀬川君だから、最近の女の子は12歳までだよ」

瀬川 「誰か！助けてくれ！！」

どうやら、瀬川さんは助けを読んでるようだ

まあ、僕はそんなこと興味ないけど……うん？今飲んだ飲み物苦い……てか、懐かしい味

美羽 「奏君！！それお酒！！」

あれ？なにか言ってる、それより僕は誰だ？まさか……神か……

瀬川 「いや、俺はそんな趣味ないっす」

佐古 「とか、言わずにほら、これ」(ちょっと危険な本を見せて

奏 「我は神……」

美羽 「奏君が狂った！！」

空 「おばちゃんじゃないもん……おばちゃんじゃないもん・

・
」

仁村 「仁村スペシャル……」

なんだ……この神が現れても、平伏せないのか……

奏 「な……なんて、美しいんだ……あなたは我が神だ・
・」

美羽 「え……急になに」

奏 「あなた見たいな人がいてよかつ……（ボタン）」

仁村 「仁村ホッケー……」

もう……無理……

こうして、鍋祭りが終了した

（翌朝）

僕はまだ寝ている

これは、寝言

奏 「あ……醤油は飲み物じゃないて……グアーーー！
」

奏 「シヨウユー將軍を倒せない……だと……」

奏 「ジーク！醤油！！ジーク！醤油！」

奏 「俺、美羽さんのことが好きです！！」

ちなみに、この寝言は佐古さん仁村さんに聞かれていました

〈次回予告〉

・ まて！！カレーにショウガはいれないものだ！！ え・・・これ・・・カレー？ ハンバーグを食べて泣いたのは初めてだ・・・

限界突破!!.....飲みすぎた.....(おろおろ(後書き)

駄文ですけど読んでくれてありがとうございます!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6736y/>

パパのことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じ

2011年11月27日21時51分発行